

森を守る恩田兄弟

奥出雲町ルポ

鳥根県出雲町三成のスキ林。仁多郡森林組合の若者二人が間伐作業に汗を流している。同町上三所の恩田芳治さん(21)、君廣さん(19)の兄弟。現場で働く森林管理隊のメンバーだ。



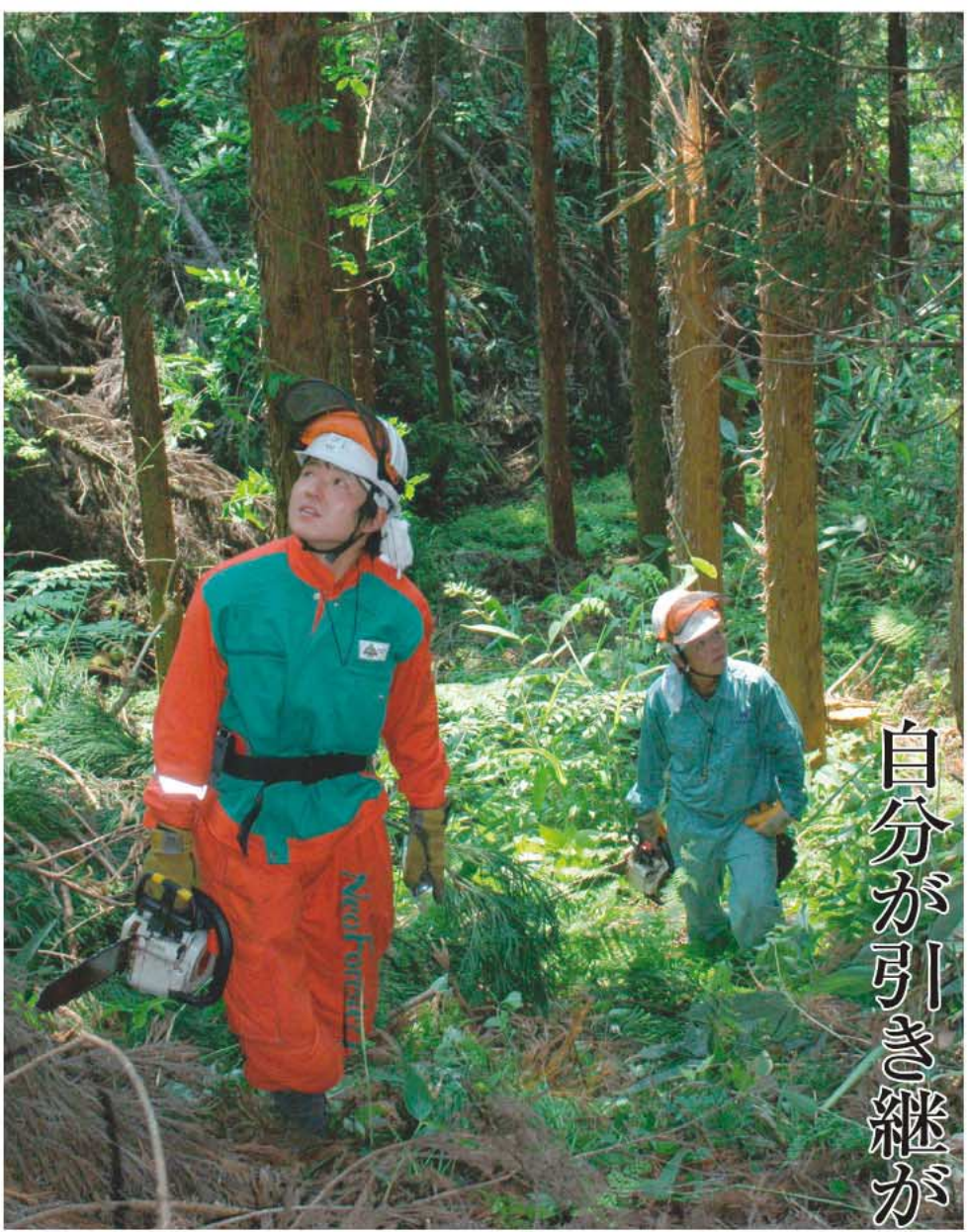
急傾斜地で昨年大雪で倒れた木を輪切りにしたり、樹勢が衰えた木を伐採したり。地下足袋に脚半をまく昔ながらのスタイルで「技術はまだまだ」と笑いながら額に汗をにじませて作業する。

恩田さん兄弟は、同組合の作業員だった父の芳夫さんの

「父のやってきた道

自分が引き継がなければ

に属し、真新しい作業服に身を包んで日々、山林で作業にあたる。昨年の夏には、草刈り作業中に暑さで倒れそうになった。ハチ



森の中をチタクシしながら現場に向かう恩田芳治さん(左)と君廣さんの兄弟



山中で間伐作業をする恩田君廣さん



小野 康二 (作家)

コラム

かを知る人は少なからう。前にも書いたが、日本は植林の先進国である。植林用の材木は数十年から、時には百年以上もたつてから伐採される。それで同一の樹木、たとえばスギならスギが、続いて、続いて二百年余にもわたって、栽培されることになる。

花粉症は自然の復讐ではないか

私たちは三浦半島に家を持っていて、その海に面した庭で多少の園芸のようなことをやっている。たまたまタマネギの収穫を遊び半分には伝っていた二十代の女性が、「タマネギが地面の中にできるとは知らなかったわ」

野菜などでは連作を嫌う。ナスを作った畑には別の作物を作るのが常識である。それならばスギとかヒノキに連作の被害はないのか、ということも考えねばなるまい。もともとも千年を越すスギの大木などがあるのだから、大木になる樹木は千たつても、生

育している土壌との調和を破ることにならないのかもしれない。そういう喬木の育っている土地には、多くの他の植物が繁茂しているのが普通で、互いに土地に影響を与えあっている。連作の被害が及ばないようなシステムを、自然に構築しているのかもしれない。

三浦半島(みづのうしほ) 1926年東京生まれ、49年東大文学部卒業、85年文化庁長官、2004年から日本芸術院院長、1967年「楳栗」で新潮社文学賞、82年「新編野山園」で芸術選奨を受賞、他に「奥出雲山園」(楳栗)などの著作がある。98年文化功労者に選ばれ、99年出雲国加茂2000年ロジック社長会長就任。

森林豆知識 間伐と間伐材利用

生長し過密となった樹木本数を減らし、目的とする樹種の個体密度などを調整する間伐作業を間伐と言う。間伐は木々の生育を良好に保ち、良質な木材生産のために必要になるほか、林内に日光を入れることで、草や低木などの樹勢を回復させ、土壌の流出防止や保水機能の確保など健全な森林形成にも欠かせない。

鳥根県内では、10年以上間伐が未実施の森林を緊急間伐対象森林として、2004年から10年間で36,400㌦の間伐が実施される予定。

この特集は4回シリーズで掲載します 企画・山陰中央新報社

森林保全活動レポート

その⑤

緑ゆたかな森を次代の子どもたちに引き継ぎます。



今回の森林保全活動レポートその⑤に登場する 鳥取市 女性の森グループ

緑の募金活動を30年以上行ってきた鳥取市連合婦人会が中心になって設立したボランティア団体で、平成7(1995)年設立。同市内26の女性グループや団体で構成されています。緑の募金活動、植樹活動、清掃活動、森林教室などを実施し、より身近な森づくりを目指しています。

- 鳥取県
- NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
 - NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
 - 広葉樹文化協会(鳥取市)
 - 財団法人 南部町地域振興会(南部町)
 - 大山横手道土上を育成する会(米子市)
 - 鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
 - 鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
 - トリネット(米子市)
- 日野川の源流と流域を守る会(日野町)
- 丸山生産森林組合(伯耆町)
 - 鳥根県
 - 出雲市林業振興協議会(出雲市)
 - NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
 - NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
 - 源流の森山づくり(邑南町)
 - 財団法人 鳥根県西部山村振興財団(浜田市)
 - 里山を育てる会(松江市)
- しまねフォレストネットワーク出雲(出雲市)
- 薪ストーブ同好会(松江市)
 - 松江ネイチャーゲームの会(松江市)
 - 木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
 - 遊木民倶楽部(益田市)
 - 特別協力
 - 山陰中央新報社
 - 新日本海新聞社

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守る!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「女性の手で森をつくろう。」

そのきっかけは、平成6(1994)年に起こった猛暑による異常渇水。鳥取は千代川のおかげで断水や給水の制限がなかったのですが、それは川の上流にある森林のおかげだと気づいたのです。それから、下流域で暮らす鳥取市の女性たちは、森の大切さを学び、少しずつ「自分たちの森があればいい。」との夢を育んできました。そして、鳥取市桂見にある「森林公園とっとり出合いの森」の一角の小高い丘を間伐したり、植樹を続けたりした結果、全国でも珍しい「女性の森」を誕生させました。今では、森林アドバイザーの指導のもと、鳥取市民の憩いの森として維持管理されています。



平成15(2003)年には、鳥取市伏野の海岸でマツクイムシに強い抵抗性クロマツを400本植えました。平成15(2003)年には、水源かん養の森・智頭町駒蹄でミズナラとオキナヤマスギを各250本植えました。毎年下刈り作業を行っています。

- 今後の活動予定(参加は自由です)
- 7/23(日) 8:00~9:00 鳥取市伏野の海岸(平成15(2003)年に植樹した場所) (下刈り作業、ゴミ拾い) ※手袋、カマ、ゴミ袋は各自持参
 - 9/3(日) 8:00~9:00 鳥取市桂見「女性の森」(下刈り作業)

山陰合同銀行 地域振興部内 鳥根県松江市魚町10 千690-0062 TEL.0852-55-1820

